

木材・合板博物館

# PLY

木と人の素敵な出会いを探る



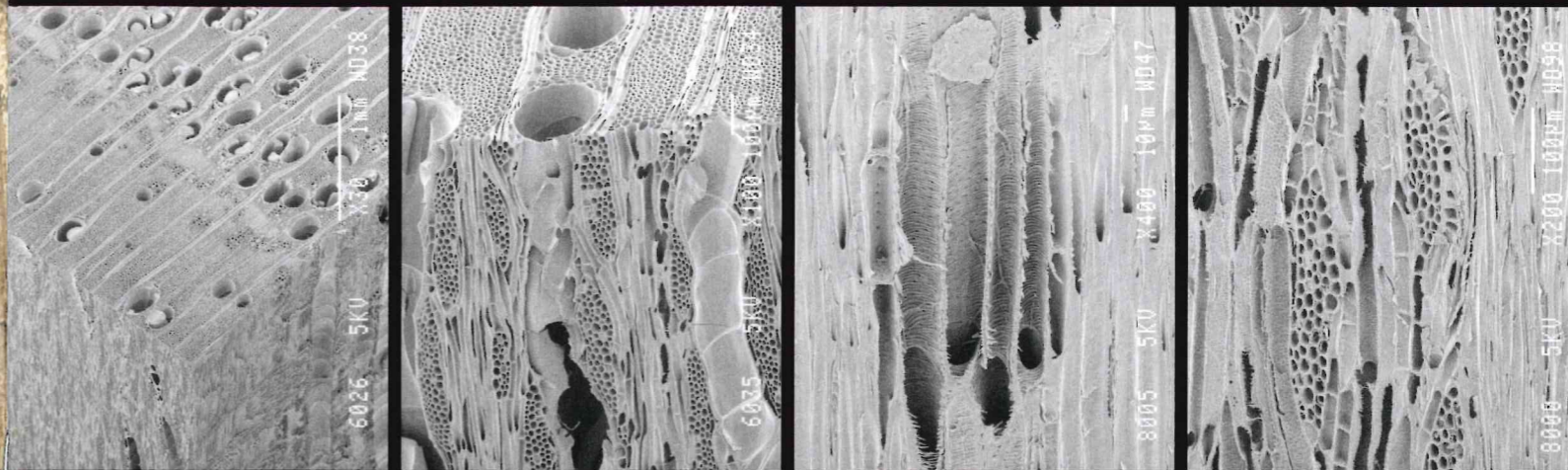
巻頭インタビュー ■ 第34回

## チームの力で森林再生がスタート～大船渡の被災木を市場に～ 岩手県 農林水産部 林業振興課・物林株式会社

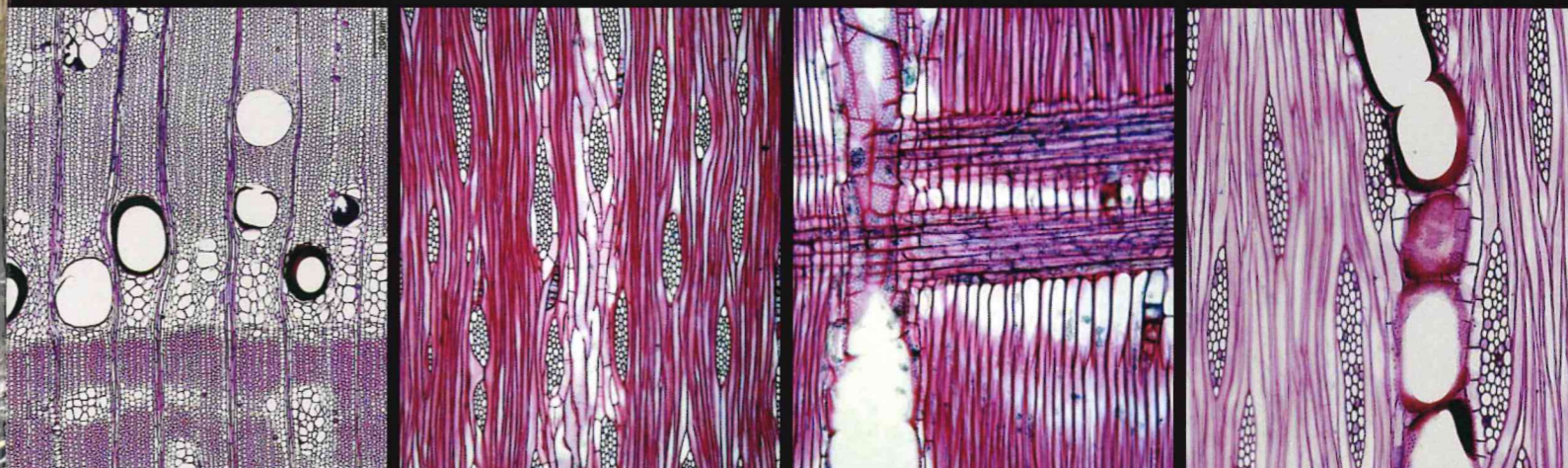
木アラカルト 22

### ヒノキ × 鏡餅

本郷 貴裕



PLY 木の誌上展覧会 第34回 走査電子顕微鏡・光学顕微鏡写真 「センダン」



写真提供：国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所

センダン科センダン属の落葉高木。暖かい地域を好む樹種で伊豆半島以西の本州、四国、九州、沖縄、朝鮮半島南部および中国南部に分布する。西インド諸島で有名なマホガニーも同じ科の樹木である。

木材は環孔材で小道管には顕著ならせん肥厚があり、年輪が明瞭で心材色は赤色に近くケヤキに似ていることからその代替材の主に家具材として使われてきた。ケヤキとやや異なるのは、木目が通直で割裂しやすく取り扱いが容易なことである。

センダンといえば日本の早生広葉樹の代表格で、その造林実績が注目を集めている。特に熊本県では古くから造林研究を進め、幹が通直になるように枝打ちではなく早めに芽欠きをして余計な枝葉が出ないようにする工夫が行われ、30年ほどを経た個体は家具製品などに試作され注目を集めている。

センダンなどの早生広葉樹の造林研究は、世界中で広葉樹の良材資源が枯渇する中、重要な取り組みであるといえるが、一方では畑の中に広い間隔で植えられている姿を見て土地利用上無駄が多いと批判する向きがないでもない。しかし、広葉樹材の造林研究は日本では数が少なく、その端緒となり多くの話題を提供してきた点においては高く評価されるべきものであろうと筆者は考えている。「山林」という雑誌にセンダンなどの早生樹造林の紹介記事が掲載されてから20年ほどたつが、木材の製品化が大きく取り上げられるようになったのは最近のことであり、早生樹といえどもつくづく林業は時間がかかるものだと思う。

木材・合板博物館 副館長 平川泰彦

#### PLY (ふらい)

PLYとは重ねるという意味があり、WOODを加えるとPLYWOOD(合板)を意味している。歳月や経験を重ねることの重要性和、木材が年輪を重ねて成長する姿も重ね合わせている。



写真1 岩手県出展ブースの様子



写真2 被災木から製作した合板と厚物合板

## チームの力で森林再生がスタート ～大船渡の被災木を市場に～

令和8年2月12日・13日に東京ビッグサイトで行われた「WOODコレクション(モクコレ)2026」に、岩手県の出展ブースがありました(写真1)。そこで展示されたのは、林業・木材関係企業等による「TEAM 森林再生大船渡」が製作した被災木から生まれた製品(合板・LVL)です(写真2)。

火災は大きなニュースとなり、記憶しておられる方も多いと思いますが、令和7年2月19日に大船渡市で発生した森林火災は強い風に煽られ、大船渡市の南東側の広範囲に延焼し、大船渡市が鎮火宣言を出したのは4月7日でした。この時被災した森林面積は3千370ヘクタールという想像を絶するほどの規模でした(図1)。この森林火災により、大量に発生した被災木の活用に向け尽力された岩手県の皆様や、被災木を無駄にさせないという強い思いから発足した「TEAM 森林再生大船渡」について、展示会場で岩手県林業振興課課長の菊地様と、物林株式会社※1の勝田様にお話を伺うことができました。

「TEAM 森林再生大船渡」始動

【勝田】被災木といっても、幹の下部が焦げているだけの、普通に使える材料が多くありました。現在のメンバーの一部の方とこれをなんとかしたいという思いから、「どうされるのか」と、県へ聞きに行ったりです。すると県にも同じような思いがありました。それではということで「TEAM 森林再生大船渡」を立ち上げました。この活動は民間主体にしたかったので、大船渡市と岩手県には協力といううかたちで入って頂きました。昨年から行っている何回かの集まりでは、地域に根ざした方などに参加を促し、「まずはモクコレをターゲットに商品を作って出展しよう」と、そして「いろいろなかたちでメンバー募集をかけてみよう」ということで、始動したばかりです。

このチームの発起人メンバーは、県と地元森林組合である岩手県森林組合連合会、気仙地方森林組合、丸太を流通するノースジャパン素材流通協同組合、それ

森林被害面積：3,370ha  
平成以降で国内最大規模

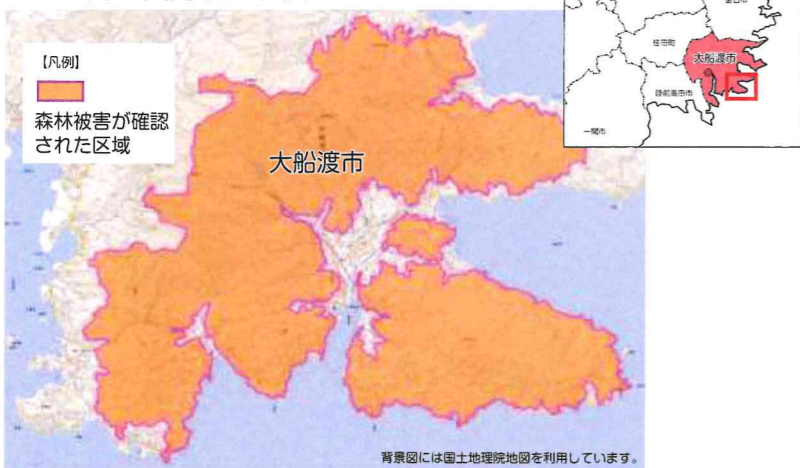


図1 森林の被害区域図 (岩手県資料より)

※3 セイホク株式会社  
宮城県石巻に合板等の工場を持つ  
木材製造販売を行う企業。

※2 北上プライウッド株式会社  
岩手県に合板・パーティクルボードの製  
造工場を持つ木材製造販売を行う企業。

※1 物林株式会社  
東京都に本社を置く、木材全般(輸入・  
国産)、建材類の販売等を行う企業。



2月12日のブース運営を行なった岩手県と物林の皆さん(菊地課長/前列左から2番目、勝田部長/前列中央)

第34回

PLY

巻頭インタビュー

## 岩手県農林水産部林業振興課 物林株式会社

令和7年、大船渡で発生した森林火災。被災したのは60年もの間育ててきた樹木である。親子2代かあるいは3代かも知れない。それら財産や人々の想いは一瞬にして燃え尽きたのか？被災地の木材を無駄にすることなく活用するために、被災木の評価を下げることなく製品化し、伐採を進め、植林を促し、再び森林を蘇らせる。強い決意を持った「TEAM(チーム)」が発足した。大船渡の森林再生に向け、官民が連携した取り組みを紹介したい。

森林火災で被災した樹木の活用を推進する

と合板メーカーの北上プライウッド※2、セイホク株式会社※3と物林株式会社です(図2)。

森林再生を促進する「材を積極的に使う」を掲げ、これを皆で、チームでやりましょうということ。この2月に立ち上げ発起しました。この「TEAM 森林再生大船渡」は、製品を作るなどを進めていく緩やかな情報交換会で、大船渡の材を使いたい、何か作りたい、売りたいといった、川上から川下までの皆様に手を挙げて頂いて、大船渡材の利用を拡げていくような活動を一緒にやろうということです。物を作ったから買ってくださいでは、ミスマッチが出てしまうなど、量が出ないので設備投資を先行しなければいけないなどあり、そこはなかなか苦しい。そこでこの会の中では「大船渡材」に絞り、川上から川



TEAM  
森林再生 大船渡

メンバー募集中!!

【菊地】昨年の4月、市と県と国、それと関係団体で「大船渡市林地再生対策協議会」を立ち上げました。まず、協議会で被害状況を把握するために、県が主導で被害調査を行いました。レーザー計測などで被害状況を把握したほか、5月頃から現地を踏査しました。大船渡市が森林所有者の特定と意向調査を行いました。本災害は、激甚災害に指定されましたので、森林災害復旧事業という制度を活用し、伐採や植栽、シ

下までしっかりとニーズを繋げていきますから、こういう物があつたらいいよねとか、こんな物出来るけどどうかとか、こういう物を売りたいなどのニーズも、早い段階で連携がとれる会にしたい、ということを考えています。現時点では発起人達だけです、随時メンバーを募集の予定となっています。

「被災木の価値は下げない」県の対応

【菊地】昨年の4月、市と県と国、それと関係団体で「大船渡市林地再生対策協議会」を立ち上げました。まず、協議会で被害状況を把握するために、県が主導で被害調査を行いました。レーザー計測などで被害状況を把握したほか、5月頃から現地を踏査しました。大船渡市が森林所有者の特定と意向調査を行いました。本災害は、激甚災害に指定されましたので、森林災害復旧事業という制度を活用し、伐採や植栽、シ

下までしっかりとニーズを繋げていきますから、こういう物があつたらいいよねとか、こんな物出来るけどどうかとか、こういう物を売りたいなどのニーズも、早い段階で連携がとれる会にしたい、ということを考えています。現時点では発起人達だけです、随時メンバーを募集の予定となっています。

【勝田】今僕らがやらなければいけないのは、被災木でもきちんと選別すれば、普通の材と何ら劣るところのない、変わらないということを知っていくことです。木は使えば使うほど森は再生していきますから、使える木は使う、例えばバイオマスチップとしても使えるといったことを考えた時に捨てる材はない。この山だと最低でも60年とか育ててきているものなので、使えるものは使いましょ、というのが今回、一番の中心に置いてきた考えです。このまま大船渡の木を伐らないで、どういことが起こるかというところ、その地域の林業が衰退していくと考えると、要は被災木を片付けないと植林ができません。ですから「TEAM森林再生大船渡」という名前は、伐つて一旦更地になれば新しい苗が植えられるという、森林再生を目指しているのです、まず伐らなければいけません。だからといって、伐つて捨てるようなことはほしくない、使っていくというのがチームの基本的な考えです。

下までしっかりとニーズを繋げていきますから、こういう物があつたらいいよねとか、こんな物出来るけどどうかとか、こういう物を売りたいなどのニーズも、早い段階で連携がとれる会にしたい、ということを考えています。現時点では発起人達だけです、随時メンバーを募集の予定となっています。

- (1) 被害面積 3,370ha
- (2) 被害額 約59億39百万円
- (3) 内訳

① 所有形態別

区分	被害面積(ha)	被害額(千円)
私有林	2,443	4,446,399
市有林	900	1,430,502
県有林	27	62,314
合計	3,370	5,939,215

② 林種別

区分	被害面積(ha)	被害額(千円)
人工林	1,785	5,429,990
天然林	1,431	509,225
伐採跡地等	154	-
合計	3,370	5,939,215

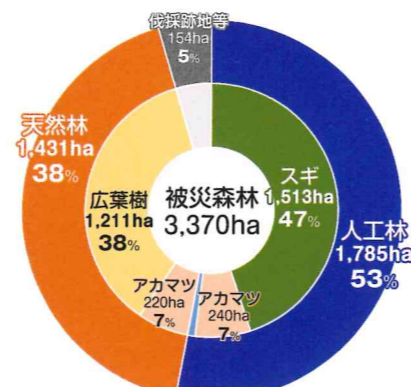


図3 森林関係の被害状況(令和7年10月28日確定)(岩手県資料より)

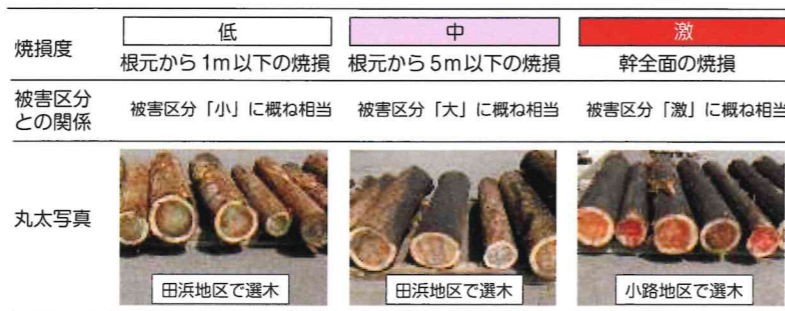


図4 強度調査用の焼損度と被害区分の関係(岩手県林業技術センター資料より)

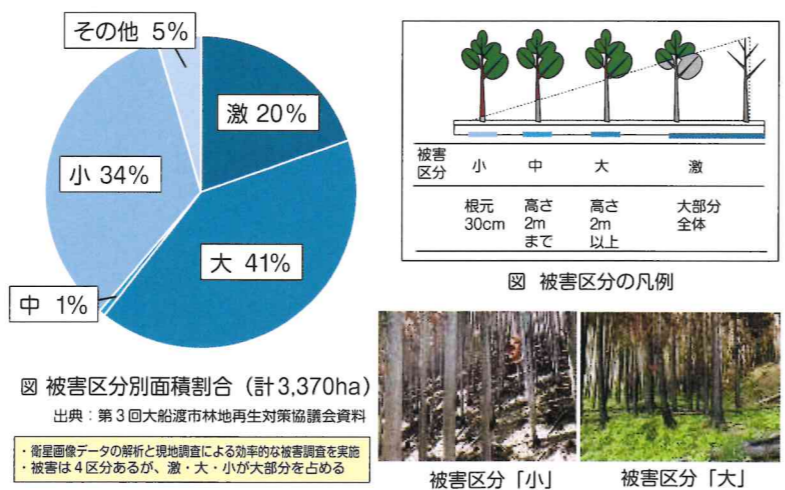


図5 試験対象木の被害区分(岩手県林業技術センター資料より)

火災発生から概ね4か月間経過した被害木の強度等を調査

(1) 観察の結果

- ① 焼損の多くは樹皮で留まっていた
- ② 焼損度が高くなると、樹皮厚は減少傾向 ※保水、防虫抗菌機能の低下が懸念
- ③ 加工性、板材の見目は、健全材と変わらない

(2) 強度調査の結果

- ① 丸太の強度性能は健全材と同程度
- ② 板材の強度性能は、集成材に利用可能なレベル

結果の総括

火災発生から概ね4か月間経過した被害木の強度性能は、健全材と遜色ない

図6 試験結果のまとめレポート(岩手県林業技術センター資料より)

大量に生まれた被災木を前に、県や市がその利活用を思案する中、あきらかに使えそうな材は使おうという思いを、県や市に相談を持ち込んだのが「TEAM森林再生大船渡」の始まりでした。幹の表面は焦げてしまったけれど、内部が使えるような木材も多く、バイオマスのチップに使用することを検討したものの、消火時に使用した塩水が機械類に悪い影響があるのではないかと懸念されました。

その後、バイオマスチップ材の検証実験を経て、問題ないことが確認された後、一部バイオマスの利用が行われました。しかし、良質の無節の丸太までバイオマスにしてしまうのは非常にもったいない話です。

【勝田】今僕らがやらなければいけないのは、被災木でもきちんと選別すれば、普通の材と何ら劣るところのない、変わらないということを知っていくことです。木は使えば使うほど森は再生していきますから、使える木は使う、例えばバイオマスチップとしても使えるといったことを考えた時に捨てる材はない。この山だと最低でも60年とか育ててきているものなので、使えるものは使いましょ、というのが今回、一番の中心に置いてきた考えです。このまま大船渡の木を伐らないで、どういことが起こるかというところ、その地域の林業が衰退していくと考えると、要は被災木を片付けないと植林ができません。ですから「TEAM森林再生大船渡」という名前は、伐つて一旦更地になれば新しい苗が植えられるという、森林再生を目指しているのです、まず伐らなければいけません。だからといって、伐つて捨てるようなことはほしくない、使っていくというのがチームの基本的な考えです。

大量に生まれた被災木を前に、県や市がその利活用を思案する中、あきらかに使えそうな材は使おうという思いを、県や市に相談を持ち込んだのが「TEAM森林再生大船渡」の始まりでした。幹の表面は焦げてしまったけれど、内部が使えるような木材も多く、バイオマスのチップに使用することを検討したものの、消火時に使用した塩水が機械類に悪い影響があるのではないかと懸念されました。

その後、バイオマスチップ材の検証実験を経て、問題ないことが確認された後、一部バイオマスの利用が行われました。しかし、良質の無節の丸太までバイオマスにしてしまうのは非常にもったいない話です。

～大船渡の森林再生を願い、被災木を活用する～

TEAM 森林再生 大船渡

令和7年2月に発生した大船渡市の大規模林野火災は、地域に大きなダメージを与えました。現地では、森林の再生に向けた被災木の伐採が進められていますが、この森林の復興が遅れることは、森林の持つ様々な機能が低下するなどの大きなマイナスになると危惧しています。

この地域の日も早い復興を願い、川上から川下でチームをつくり、この地域の森林から運び出される被災木を積極的に活用する企画案を行い、再生林の促進への一助としていきます。

被災木：大船渡市大規模林野火災被災地より令和7年2月以降に素材生産された木材  
(被災地：大船渡市赤崎町、大船渡市三陸町糠里、大船渡市三陸町越前地内)

「TEAM 森林再生大船渡」

発起メンバー：Forest 岩手県森林組合連合会、Forest 気仙地方森林組合、ノースジャパン素材流通協同組合、北上フレイウッド株式会社、SEIHOKU、Butsun 物林株式会社

協力：大船渡市、岩手県  
事務局：気仙地方森林組合 大船渡支所 担当：菊地 TEL 0192-26-5359

募集！ この活動をさらに推進していくために協力いただけるメンバーを募集いたします。事務局までお気軽にお問い合わせください。

～大船渡の森林再生を願い、被災木を活用する～

TEAM 森林再生 大船渡

伐採 → 選木・有効活用 → 再生林促進 → 森林再生

川上

新たな利用で需要増=再生林の促進へ

～大船渡の森林再生を願い、被災木を活用する～

つなぐ

TEAM 森林再生 大船渡

川中 TEAM連携 川下

多様なフィールドでの被災木利用を提案

土木 景観 建築

図2 「TEAM 森林再生大船渡」の組織理念などを示したパネル

ここで弾かれた材はチップに加工して、バイオマスボイラーで燃料として使われるなどし、捨てることには何もありません。

合板材はロータリーレースに入っていきます。一度工場に入ってしまうと、通常の生産ラインに沿って加工されます。標準的なプロセスを踏んで、最後のガイドがかかっている状態です。標準の丸太が流れている時は、丸太歩留まりという製造歩留まりが例えば50パーセントだとすると、ここでガイドをかけることで、例えば極端に落ちてきた時、「この材ももう少し厳しくチェックしろ」とか、「この材は使えないかも」というアラートとなります。こういった仕組みがあれば、合



写真4 展示されていたDLT  
これは長谷萬さんの製品です。CLTと違い、接着剤を使用しない、木ダボ材の摩擦だけで材を繋げています。能登の震災では被災地などでもこの材が使われています。建築家の坂さん（※5）が災害公営住宅などにも採用しているので、話題になっている材料ですね。（勝田）

※5 坂茂（ばんしげる）  
日本の建築家、避難所や復興住宅関係の設計なども多く手がける。

合板製造フロー（被災木）



図5 伐採から工場入荷前までの工程

板製造で発信し、それを受け林業試験場などでチェックするなど次のアクションに繋げることが出来ます。森林火災材を活用するときの、一つのアラートというか実績にもなると思います。そういったことも内包したプログラムにしようとしています。このように被災木処理の間はどちらかというと山側にあります。

被災木と健全木を比較すれば、木の香りが損なわれているなどの違いがあるものだと思いますが、置いてあった被災木（写真5）はなにも匂いませぬね。

【勝田】 焦げたような匂い？ それは全くないですね。鼻をつけても杉の匂いがするくらい。パーク（樹皮）を取った時点でまず匂わない。山へ行くと分かりますが、何回も雨に当たっていますから、山も焦げた匂いなどあまりしないんです。この現地の丸太も匂っていません。ば分かんと思いが匂いはほとんどありません。

我々は、この大船渡材という物を、使える使えない、将来どう変わるかといったことについて皆で情報共有していかうと、今、話し合いを始めています。今回いち早く被災木についてセイホクさんに、「きちんと除去すれば使える」と言っていたので、それをいろいろな形で展開できれば、今後起きてくることにも使えます。その仕組み自体を、川上、川中、川下のサプライチェーンの中で、きちんとニーズや量が伝わるよう相互にやっていければ、大船渡の次に展開できるかも知れない、そういうことを期待しています。



勝田幸仁朗（かつたこうじろう）  
物林株式会社 社長室  
新事業推進部 部長



菊地明子（きくちあきこ）  
岩手県農林水産部 林業振興課  
技術主幹兼林業・木材担当課長

TEAM 森林再生大船渡メンバー

Jforest 岩手県森林組合連合会 Jforest 気仙地方森林組合 ノースジャパン高材流通協同組合  
北上市ノースウッド株式会社 SEIHOKU Butsurin 物林株式会社  
協力：大船渡市、岩手県  
事務局：気仙地方森林組合大船渡支所



写真5 展示されていた火災被災木



写真3 3月12日に岩手県ブースを訪れ、菊地さんと勝田さんから説明を受ける小坂林野庁長官（中央）。

私共は林業振興課で木材の担当をしておりますので、被災木をいかに利用していくか、ということについては、当初からいろいろと話をしております。大事なことと思っております。利用先がなければ伐採が進まない、伐採を進めるために、利用先を確保することが重要です。そこで、企業さんへ回って、なんとか使ってもらえないかという働きかけをしていました。

そのような中で、物林さんから連絡をいただいたのが夏頃だったと思います。「TEAM 森林再生大船渡」という仕組みを作ったことで、多方面に販売が拡大し、利用先が増えていけば、伐採が進み新たな植栽が促され、大船渡の被災地の復興が進んでいくことに繋がっていきます。これまでに「TEAM 森林再生大船渡」のプロジェクトも、様々な打ち合わせをしながら進めてきまして、合板やLVL製品を作った頂き、今回こういう形で展示することが出来たのは、本当に大きな第一歩になります。この取り

伐採までの猶予はおおよそ3年間

【勝田】今は地球温暖化の影響もありますし、この時期空気が乾いているので、昔は普通にやっていたようなことでも火災になってしまっています。例えばタバコの火、里山の焚き火などといったちよつとしたことでも、土地が乾いていると、あつという間に広がってしまふんです。この火災は乾いた土地ではもうすぐ人の手で止められない状態になります。

木が半分枯れた状態で、どれくらいの間生きていくのか？ 枯れているように見えても生きている細胞が残っていれば元に近い状態に戻ることがあります。葉があると戻るのでないかと思われがちですが、必ずしもそうともいえません。昨年の夏頃ですが現地へ入って行くと、青い葉と枯れた葉の両方が付いている木がありました。何ヶ月か後に見ると枯れた葉が多くなっていました。それは木が火傷をし、水分を吸う力が弱くなるなど樹勢が衰えていつている状態です。木材と

組みは大変ありがたいと思っております。

このように岩手県では被災木利用促進に力を注いでいます。しかし県の対応はこれだけでは終われません。海からほど近い山地との間に住宅が密集する大船渡では、他にも対応しなければならぬことがあります。火災ですつかり下草を失った山は保水力が低下し、土砂災害のリスクが高まります。雨で土砂災害が発生するといったことのないよう、大型土のうを設置したほか、治山ダムを整備も急がれています。

今回の火災は、過去に例をみないほどの規模で被害がありました。近年の森林火災は、直近5年間（令和2年〜令和6年）の平均で、1年間に約1・2千件発生し、焼損面積は約8百ヘクタール、損害額は約3・2億円となっています。1日あたりにすると、全国で毎日約3件の山火事が発生し、約2ヘクタールの森林が燃え、約90万円の損害が生じていることになりました。（林野庁Webサイトより）



【勝田】被災木はまず現地で、地面から近い焦げた不適材部分を除去していきます。さらに工場を選木します。合板の場合は、薄い一枚の板にしますが、センサーを通して一枚一枚チェックするので、ここでも不適材としてはじかれる仕組みがあります。表面の欠点除去を行うので、黒く焦げた部分は傷と認めて弾かれます。これは元々合板のラインに備わっている設備で

【勝田】この2月にお披露目ですから、春先くらいまでに、我々に賛同してくれるメンバーが集まり、大船渡材をどのように使っていくかなどについて、プレスト出来るようなところまでを今年いっぱいかけて。そして翌年、翌々年度には、それをどのように生産に置き換えるか、ぐらいいのスピード感でいかないと、被災木も今後3年程が伐り頃なので、3年間で使いきるくらいでいかなければいけません。今はそのように考えています。

被災木の伐採から搬出、製造までは、何か特別な資機材に新たな投資が必要になることはないそうです。が、しかし、伐採などを行う現地では少くだけ特別な作業があるようです。

しての強度も徐々に落ちていくと思われれます※4。それが、どのくらいで落ちるのかという詳しいデータはあまりありません。しかし、岩手県さんは、かつて釜石で山林火災を経験されており、その時の経験では3〜5年くらいで材の品質が落ちていきました。今回さらに、セイホクさんなどにご協力いただきながら、データを蓄積していけば、作りながらそれが分かってくる。そういった知見を蓄積していくと、いつまでに使わなければいけない、といったアラートが出せるような状態になっていけると考えています。

「TEAM 森林再生大船渡」は今後、どのような予定で活動されるのでしょうか。

※4 樹勢が衰えるとキクイムシなどの食害を受けやすくなり、さらに腐朽菌などが入ってくると、木材としての強度も徐々に落ちていくと予想される。強度が低下する時間は火災被害の程度、同様に食害や腐朽被害の程度によって状況が大きく異なる。

# ヒノキ×鏡餅

彫刻家? アーティスト? 家具職人?  
自称インテリア作家は多才ゆえに多忙だった



写真①

今回このコーナーで紹介する本郷さんは、飛騨高山で木工を生業としておられる方です。作品はWebサイトやSNSを通して販売され、多くの人々を魅了しています。彫刻家という紹介を受けていましたが、HPを見ると「家具職人」と書かれていて、さらにインスタグラムなどに紹介される作品を拝見すると、アーティストのような印象も受けます。正解はご本人に聞いてみましょう。

## 雑貨小物から大型家具まで

いろいろやっているんですけど、無垢のテーブルや椅子、突板を使ったフレンチ構造の家具、小物類なども造っていますので、インテリア作家とか、そういう感じで名乗ってますね。

飛騨高山という地域は、木材の産地で木工も盛んです。「飛騨の匠」と言われ、昔は税金を納める替わりに職人を派遣するといったことがあったようです。この土地の家具は昔から有名で、他には仙台筆筒や北海道旭川、福岡大川などに木工産地があります。私

は飛騨高山に専門学校があった関係でこの場所に来て、居ついてしまいました。まあ近いとはいえ、東京からは車で6時間くらいかかります。途中松本までは高速で行けるんですけど、そこから上高地方面へ向かい安房峠を抜けて高山市街地へ下る感じです。今は安房トンネルが出来て便利になりましたが、それがなかった頃は安房峠を抜けて相当大変だったようです。飛騨産業※1とか、柏木工※2などの大きな会社もあるのが高山です。

——本郷さんの現在の仕事の中心は?

小さな雑貨から、大きなテーブルまで様々です。木製の鏡餅(写真①)とか木のポックリみたいなサンダル、他にはスツールみたいな物も作った事もあります。こういうテーブル(写真③)は、家具業界では普通の規格だと大きくても1800mm程度です。これは、2700mmくらいあったのかな。トチ、サクラ、クリなど数種を使ったかなり大きな物のご注文でした。樹種は広葉樹、針葉樹とあります。針

使ってデザインしました。ヒノキの削り出しで木の香りがするアイテムです。写真には出ないすごく良い香りがします。海外でも人気があり発送しています。

## 異素材への挑戦と能登支援

これ(写真⑤)は石川県の復興の一環で、紙芝居をやるというので私が紙芝居の舞台を作り、それを能登の知り合いに送り、輪島塗りではないんですけども、透漆を塗ってもらいました。完成したものは復興ボランティアの手に渡り、上演されているようです。

『go\_stool』という作品(写真⑦)は、初代から13世代まで改良を加えており、毎年のように進化しています。その度に治具(型みたいなもの)を全部作り直しています。そしてこれ(写真⑥)は弓道の弓をひく時につけるギリ粉を入れる物です。本物の鹿の角で作ってくれという依頼だったので、ポンポンと出さな



お話を聞いたインテリア作家の本郷貴裕(ほんごうたかひろ)さん。穏やかな表情で静かに語る様子は、頑固な職人というイメージとは真逆の印象です。

飛騨高山の家具職人です。豊かな原生林に恵まれたこの地では、数百年に渡り「飛騨の匠」と呼ばれる木工の技が育まれてきました。その伝統の技を受け継ぎ、厳選した日本の天然木材を使ってオリジナルの家具を作っています。木材に革や鉄、樹脂などを組み合わせた独特のデザインは、他では手に入らないと思います。細かな要望に応じた特注家具も製作します。ぜひご相談ください。本郷貴裕 Web サイトより

ければいけないので、穴をあけてキャップを付ける加工で細工をしたりしました。——鹿の角はとも硬そうですが、同じ木工用の道具で加工出来るものなのですか?

鹿の角は硬い木に比べると、実は柔らかいですね。柔らかいといっても歯と同じような感じですよ。よく刃を研げば削れないこともないような硬さですね。

——木材以外の材料も積極的に使い、作品作りを行っているそうですが、それらの技術の習得はどのようにされたのですか?

それらの技術はもう独学です。試行錯誤しながらですね。革は同級生に革職人がいるのでその人に教えるを乞います。なめし加工など、聞いて勉強したりとか。それと木との相性がどうなのかとかですね、特性が全然違うので。それは革、鉄、樹脂、全部違います。それをどうやって合わせていくのかなど。それは自分で研究してやってきましたね。ただ自分の興味本位でやっていった。『これ売れるんだ』

## 作品制作の発想とオーダー家具

最初の発想は、自分が欲しい物を形にすることだと思っています。その中なるべく世に出ていないニッチな物を探して、デザインして製品にしていきます。『自分が欲しい物』というのは履き違える世間とズレる可能性があるようで、常にSNSなどで情報を精査するように心掛けています。注文があった場合は、このような物を伝えられたものを形にします。簡単な図面を描いて、こんな感じはどうですかと、そういう流れで進めます。それを何回かやりとりして、まあ完全オーダー家具ですよ。

例えば、アートフェア東京という展示

会が、3月に東京国際フォーラムであります。サザビーズジャパンの社長をされた骨董品店の先輩から、今度展示会をやるからということ、ブーシの内装、テーブルなどの什器製作の依頼がありました。3日間しかやらないので、組み立て式にしたりなど工夫して制作しています。載ってるものは小さな壺ですが、5千万円程したりします。毎年制作していますが、年々テーブルの上の物の値段が上がってきて……、こちらはもうヒヤヒヤなんです。折られたみ式で、且つどっしりしていないと、来場者がぶつかって落としたら大変です。なので下に重心がくるように工夫をしています。

天板は無垢のクルミを使ったテーブルなんですけど、中の台は突板です。板と板の継ぎ目が見えてしまうと美しくないので、そこを『留継(とめつぎ)』※3という、木口を斜めにカットして見えなようにする技術があります。それを使って作られています。施主さんから『なにしろ美しくしてくれ』というご注文に添えての加工でした。

## 独自の「削り出し」鏡餅

——家具の出来とは違うところでドキドキしてしまうこともあるんですね。多くの作品がありますが、「鏡餅」は本郷さんの作品の中で一目を引きますね。

鏡餅は年末になるとけっこう売れるんです。削りだし鏡餅は、よくある旋盤を使った木製鏡餅では個性もなく、つまらないので独自の削り出しという手法を



写真①鏡餅(ヒノキ彫刻)②蓋蓋(ヒノキ)③展示台(天板クルミ無垢材、側板突板)④テーブル(トチ、サクラ、クルミ)⑤ギリ粉入れ(鹿角)⑥紙芝居舞台(透漆塗り)⑦「go\_stool」(脚部クリ/Bウォルナット/クルミ・座面本草)

※3 留継(とめつぎ) 部材同士を45度に加工して継ぎ合わせる仕口。

※2 柏木工株式会社 岐阜県高山市に本社を置く木製家具・建具製造販売。

※1 飛騨産業株式会社 岐阜県高山市に本社を置く家具インテリア用品の製造販売。

とか、商品にしていけるのが楽しかったの  
で、どんどん研究していきました。

## 日々進化するSNSの格闘

販売はインターネットが中心ですか？

かつてはアクタスさん※4で扱っていたり、今はアルテジャパンさん※5などに卸しています。そちらの社長や担当者というののどうかなど意見をいただき、それを製品化してそのカタログに載せてもらったりしています。

ネット中心に切り替わったのは、ここ2、3年ですね。初期のインスタというのは、それこそ出せば皆売れたんですよ。インスタの中で、例えば『テーブル』と検索したら上位に表示される。その上位表示のためにどうするか、みたいな戦いがあるんですね。それは研究され尽くされてきて、最近ではさらにAIとかアルゴリズム、そういったものを研究したものの勝ちになっているんですね。初期の頃は、ただ『いいね』が多い方が検索でヒットするという感じだった。今はいいねは関係なくて、写真の投稿よりリール動画※6という動画のほうが検索上位にくる。さらに今はインスタではなくティックトックに中心が移っています。それらSNSのコンサル会社もたくさん出てきているので、こういう写真を撮ってくださいなどみんな研究している。企業も個人もそちらに移行していますから、HPだけで販売していけるのはほんの一握りだと思います。

このように仕組みがすごく複雑になっ

なぜ拠点を福島に移そうと思われたのですか？

高山では工房も自宅も賃貸でした。福島には50年くらい別荘のようになっていた祖父の家があって、それを相続したんです。高山は木材などが手に入り易く、部品屋とか機械屋とかも揃っているんですけど今の時代、材でも部品でもネットで買えちゃうんで、別にそこでなくても欲しい物は取り寄せればいいし買に行けばいいし、材料もまとめてトラックで買に行くという考えですね。そう考えると福島でやらない意味もないなあという感じですね。

家は猪苗代湖と磐梯山の間にあります。が別荘地ではありません。福島には雪も降りますし、湖や裏磐梯には川もある。釣りが趣味なんでもうどいいやと。海釣りもするんですけど、1時間ちよつとあれば新潟へ行きますし、趣味のカヤックフィッシングも新潟でやりたいと思っています。私が生まれた頃からずっと通っていて、近所には昔からの顔馴染みの方達が暮らしていますから、ふるさとのような感じで居心地は良いですね。

お祖父様は何をされていた方なんでしょうか？

結構手広く製材所をしていて、インドネシアまで商売を広げ、そこから山を切り開いて輸入していたとか、そんなことをしていたようです。私の幼少期にはその木材商売は終わっていたのですが、よく両親が言っていたのは、『小さい時に福島に行く、貴裕はなにせ山に連れて行ってこれとせがんだんで、おじいさんが車で山に連れて行ってこれるんだけ



写真⑧テーブル(ナラ材)⑨壁掛け時計(ヒノキ材無塗装)⑩クリスマスツリー(彫刻/ヒノキ無垢)⑪まな板(クリ、鉄媒染塗装)

てきています。ですからシステムの勉強をしなければなりません。しかし、それをしていると制作の手が止まってしまします。一人でやっていると、作らなきゃいけない、梱包しなきゃいけない、パッケージも自分でデザインしなければいけないなどやるのがたくさんあります。仲間撮影やSNSに詳しい人とか、デザインできる人を見つけないといけません。

## 脱サラし木工職人へ転身

本郷さんは初めから職人修行をしたのではなく、木職人になられるまでのことを教えてください。

私が若い頃、父親がドイツの染料・顔

料、そこで何をやるわけでもなく1時間うろろろして、暫くするとまた山に行こうと、そういう子だったらしいです。そういう意味では昔から木と縁があったのかも知れないですね。

これからの仕事環境は、オフも含めてかなり充実したものにしたいですね。

一旦、2年間の予定で猪苗代の工務店に入社して仕事することにしました。期間限定でサラリーマンに復帰です。その会社は戸建ての仕事が順調で、その内装の家具類などの仕事もあるので大変忙しい状況になってしまいました。

今、福島私の工房は、工具類などは倉庫を借りています。祖父の家の敷地は800坪程あるので、中に工房を建てたほうが良いかなというとも考えています。将来は、ホテルや企業のロビーの巨大カウンター、シャンデリア等の照明などの制作、それに会津・猪苗代を象徴するような小物製品を制作していきたいと考えています。同居している一匹の子犬と、この2年間の中でどのようにしていくか考えていきたいですね。



本郷貴裕 (ほんごうたかひろ)

1972年 東京都生まれ  
1995年 成城学園大学 卒業  
株式会社ターバン 入社  
飛騨国際工芸学園 卒業  
2002年 飛騨国際工芸学園 卒業  
2008年 独立、飛騨高山に工房を構える  
2025年 福島県猪苗代に工房を移転



Webサイト



Instagram



フェイスブック

## PLY 第34号 2026 SPRING

【発行日】 2026年3月15日  
【発行】 木材・合板博物館  
〒136-8405  
東京都江東区新木場1-7-22 新木場タワー3F・4F  
TEL03-3521-6600/FAX03-3521-6602  
E-mailinfo@woodmuseum.jp  
【発行者】 吉田繁  
【編集】 佐藤雅俊(編集長)  
PLY 編集委員会  
【デザイン】 株式会社デジタルアート

## 編・集・後・記

近年、地球環境の変化の影響により、我が国においては、自然災害が頻発しています。森林においても、豪雨に伴う土砂崩れや乾燥による山火事が増加し、その被害は深刻です。とりわけ、大船渡市の森林火災は、1964年以降で国内最大規模の焼失面積となり、木材資源に甚大な被害をもたらしました。巻頭インタビューでは、その大船渡市において森林火災復興のために立ち上げられた「TEAM 森林再生大船渡」取材、TEAM で実施される森林火災後の森林の早期復旧、被災木の伐採と利用、さらに新たな森林の育成などを含めた、復興事業の内容等について詳しくお話を伺いました。木アラルトでは、木の魅力に惹かれ、サラリーマンから家具職人へと転職した作り手を紹介します。飛騨高山での工房設立から福島への移転など、これまでの歩みや木製家具に込める情熱についてお話を伺いました。(S)

## 飛騨高山から猪苗代へ

工房を福島県に移されるとお聞きしました。

バック背負ってヨーロッパの中をうろろろしていました。(フランス語は日本に帰ってからの方が勉強しました。)それらはとても良い経験でした。親には感謝しています。大学を出てからその時興味があったアパレル会社に入社しました。服を作る部門があると思っていましたが、全てアウトソーシングだったので30歳の頃、サラリーマンを辞めました。

デザイン作業がお好きだったのですか？

小学校から好きで刺繍とかやっていた。やっぱ作る、デザインするのは好きだったと思います。30歳までは木工をやるうとは一切思っていなかったですね。どちらかというと無理やり探した感じはあります。ただただ職人をやりたかった。最初は革物、靴とかバッグとか、そういう物も作りたいなあと思っていたこともありましたが、手先は昔から器用だったので木工ならできそうかなと思っ...

探したところ飛騨高山に飛騨国際工芸学園という学校があったので、そこに行きました。普通の木工学校では技術しか教えませんが、この学校は製図やデザイン、梱包も教えてくれたんですね。そういう勉強が今とても役に立っています。製品をきれいに梱包するとお客さんが喜んでくれます。その学校を卒業してから地元で会社に就職し、さらに木工を学んだ後に独立しました。



facebook



HP



Map

## 木材・合板博物館のご案内

https://www.woodmuseum.jp/

開館時間 10:00~16:30 (最終入館時間16:00)

休館日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始 ※幼児および小学生の入館には、保護者のつきそいが必要です。 ※都合により開館日・時間を変更する場合がございます。

所在地 東京都江東区新木場1-7-22 新木場タワー3F・4F  
TEL 03-3521-6600/FAX 03-3521-6602

入館無料

※6 リール動画 Instagramのリールは、最長90秒の動画を投稿できる機能。

※5 株式会社アルテジャパン ガラスを素材としたテーブル、ミラー、ラック及びチェア等の販売。

※4 株式会社アクタス 全国主要都市のインテリアショップへの卸売、店舗展開。